

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

増島宏教授経歴年譜著書・論文等目録

雑誌名	社会労働研究
巻	40
号	3-4
ページ	19-34
発行年	1994-02
URL	http://hdl.handle.net/10114/00018701

増島宏教授、著書・論文等目録

著書

『現代政治と大衆運動』 青木書店 一九六六年

『現代日本の政党と政治』 大月書店 一九六六年

『無産政党の研究―戦前日本の社会民主主義―』（高橋彦博・大野節子と共著）

法政大学出版社 一九六九年

『自由民主党』（編著） 新日本出版社 一九七四年

『日本の統一戦線―革新統一への歴史と展望―』（上・下）（編著）

大月書店 一九七八年

『現代日本の議会と政党』（編） 学習の友社 一九八〇年

『現代日本の思想構造』（編著） 法律文化社 一九八二年

『大学とは』（編著） 日本私立大学連盟研修事業委員会 一九八六年

論文

- 「米騒動」の第一段階―富山県下現地調査を中心として― 『社会労働研究』 第一号、一九五四年二月
- 労働者党の結成（一）―チャーティズムの場合― 『社会労働研究』 第三号、一九五五年三月
- 労働者党の結成（二）―チャーティズムの場合― 『社会労働研究』 第四号、一九五五年十一月
- 二大政党制の政治的意義 『社会労働研究』 第五号、一九五六年三月
- 日本の民衆運動 『法政』 一九五七年二月
- 岡山県下の米騒動―農民運動との関連を中心に― 『社会労働研究』 第七号、一九五七年七月
- 日本資本主義の国家―天皇制、軍事的、封建的帝国主義を中心として― 『日本資本主義研究入門（2）』 日本評論社、一九五七年
- 勤評問題の政治的構造―大阪府を中心として― 『社会労働研究』 第九号、一九五八年一〇月
- 国民運動の組織論 『中央公論』 一九五九年三月号
- 日本の政治的底流―国民運動と地方選挙― 『中央公論』 一九五九年六月
- 現代の政治構造 『経済時代』 経済時代社 一九五九年八月号
- 「向坂論文」と統一戦線 『現代の理論』 第二号、大月書店、一九五九年六月
- 政治的統一の組織化（上）―マルクス主義と統一戦線― 『思想』 一九五九年九月号
- 米騒動とシベリヤ出兵 『学習の友』 学習の友社 一九五九年九月号
- ファシズムの危険はあるか―日本の政党の役割― 『法政』 一九六〇年五月

安保反対闘争の遺産 『平和と民主主義』憲法擁護国民連合 一〇八号、一九六〇年八月

総選挙は反動支配との対決 『学習の友』学習の友社 一九六〇年十一月

日本労農党の成立―中間派社会民主主義の原流― 『社会労働研究』第一四号(下) 一九六二年三月

マス・コミの社会党攻撃 『亜細亜時報』亜細亜経済研究所 一九六二年三月

今次参議院選挙と労働組合 『銀行労働調査時報』銀行労組研究会 一九六二年五月

現代史における社会党の潮流と課題―構造改革は万能薬ではない― 『新しい社会主義のために』社会主義研究所
一九六二年五月

「種蒔く人」の時代―特集・種蒔く人の再検討― 『所報』日本近代文学研究所 一九六二年八月
転換する日本の政治構造 『現代の眼』一九六三年二月号

The Socialist Party of Japan. *Journal of Social and Political Ideas in Japan*. Vol. 1, No. 2. Aug. 1963. The Center
of Japanese Social and Political Studies, p. 44-47.

社会党の理想と現実―政権構想の実態をめぐって― 『現代の眼』「特集・社会党政権は実現するか」 一九六三年一
月

政治(社会人大学公開教養講座) 『社会人』一九六三年八月

けわしい革新政権への道 『エコノミスト』一九六三年十二月三日

政党の組合指導と労働運動 『労働法学会報』労働法学会 第五九一号 一九六四年一月

社会党政権論―現実の経験から遊離した状況認識の貧困を伴う点を指摘する― 『潮』特集「日本の現状と将来」

一九六四年一月

マルクス主義国家理論の動向 岩波講座『現代』第八巻「現代と国家」所収 一九六四年三月

「国民運動」の目ざすもの 『エコノミスト』保守支配の現実(2) 一九六五年四月

The Japan Socialist Party: How to Break the Present Stalemate. *Journal of Social and Political Ideas in Japan*, Vol. 3, No. 1, April, 1965. Published by the Center for Japanese Social and Political Studies.

二つの選挙の意味するもの 『法政』 一九六五年八月号

参院選の意義と今後の世局 『経済時代』 一九六五年八月号

佐藤内閣の反動性を探る 『自治労調査時報』第二六一号 一九六五年十一月

社会民主主義者の「革新」―麻生久を中心として― 篠原一・三谷太一郎編『近代日本の政治指導―政治学研究』(岡義武先生還暦記念論文集) 東京大学出版会 一九六五年

議会制度小論 『社会労働研究』第十二巻第二号 一九六六年一月

七〇年問題に取り組む革新の姿勢 『エコノミスト』一九六六年一月四日、一日合併号

大衆運動と議会 『政治公論』第五三号 一九六六年三月

山川均「政治的統一戦線へ!」 『エコノミスト』一九六六年三月一日号

東と西・国家と市民 『エコノミスト』一九六八年一月二日号、一月九日号

市民生活と市民運動 『都政』東京都政調査会 一九六八年二月

軍国主義と腐敗露呈する佐藤内閣 『機関紙通信』一九六八年三月二二日

「日米共同責任時代」と「明治百年」 『明治百年問題―緊急特集版第三集』青木書店 一九六八年五月

米騒動の歴史的意義 『経済』第五二号 一九六八年八月

参院選後の政治情勢はどう展開するか 『法政』第一七巻第九号 一九六八年九月

報告・イギリスの日本研究 『社会労働研究』第一五巻第一号 一九六八年九月

統一戦線の底流をさぐる―「民擁連」のその後と可能性― 『エコノミスト』「戦後体制の崩壊と七〇年代の展望（六）」 一九六九年三月四日号

議会制民主主義とはなにか―議会制民主主義をまもり、国会の民主的刷新をかちとるたたかいの意義 『月刊学習』一九六九年一〇月

解題・新人会機関誌―一九一九年三月―一九二二年四月― 大原社会問題研究所編「日本社会運動史料・機関紙誌編」 法政大学出版局 一九六九年

創価学会・公明党の言論抑圧問題の政治的意義 『シンポジウム 言論・出版の自由』 飯塚書店 一九七〇年

普選運動と政党政治 『講座日本歴史（第七巻）』「日本帝国主義の崩壊」 東京大学出版 一九七一年五月

戦後保守政治のなかの佐藤内閣―国民不在の密室政治に終始― 『エコノミスト』 一九七二年七月四日

統一戦線 『学習の友』 一九七二年九月

破産への歯止め・小選挙区制 『エコノミスト』 一九七三年五月八日号

日米安保条約廃棄のために（第一九回日本母親大会討議資料） 『みんなの話あいのために』 第一九回日本母親大会実行委員会 一九七三年七月

政治革新の条件と労組の課題 『月刊労働問題』 一九七三年九月

自民党支配の危機 『法政通信』法政大学通信教育事務局 一九七三年一〇月

戦後革新から七〇年代革新へ 『エコノミスト』臨時増刊号 一九七三年十一月一七日

七〇年代革新統一への道 『学習の友』 一九七四年一月

世界の平和と日本―日米安保条約と私たちのくらし― 『みんなの話しあいのために』（第二〇回日本母親大会討議資料） 一九七四年

現代政治と自由 『科学と思想』「総特集・マルクス主義と自由」第一五号 新日本出版 一九七五年一月

戦後民主主義論 『科学と思想』「特集・戦後三〇年」第一七号 新日本出版 一九七五年七月

階級と政党（働くものの政治学・三）『働くものの学習基礎講座（三）』労働者教育協会編 学習の友社 一九七五年

議会制民主主義をどう考えるか 『民主主義と現代』湯川和夫編 青木書店 一九七六年

「日本論」を問う―その虚像と実像― 『文化評論』第一九五号 一九七七年七月

選挙結果とこれからの課題 『建設』東京土建一般労働組合 一九七七年一〇月号

現代日本の政治・イデオロギー状況（歴科協第二一回大会松尾報告についての意見）

『歴史評論』校倉書房 一九七八年二月

「ユーロコミュニズム」と日本 『科学と思想』「特集・現代と社会主義」第二九号 新日本出版社 一九七八年七月

「米騒動」研究の成果と課題 『米騒動五〇年』（労働運動史研究）労働運動史研究会編 労働旬報社 一九七八年

日本労農党の成立（抄録） 『歴史科学体系（二六）社会主義運動史』歴史科学協議会編 校倉書房 一九七八年

中道で未来は開けるか 『婦人通信』日本婦人団体連合会 一九七九年四月号

大平反動内閣と右傾化する「中道」 『経済』第一八六号 一九七九年一〇月

八〇年代の政治情勢と私たちのくらし 『建設』東京土建一般労働組合 一九八〇年八月

「非常識の政治」を超えて 『文化評論』「特集・政党選択への問題提起」 第三〇四号 一九八六年

米騒動の現代的意義 『歴史評論』第四六三号 歴史科学協議会編 校倉書房 一九八八年二月

竹下辞任と政治のゆくえ 『文化評論』第三四〇号 一九八九年六月

シーボルトの日本観―幕末外国人と比較して―

衆参ねじれ現象と自公民路線 『時事教養』 自由書房 一九九一年五月

シーボルト (PHILIP FRANZ) の日本観「シーボルトと日本の近代化」―幕末外国人と比較して― 法政大学出

版局 一九九二

深まる野党の準与党化現象 『時事教養』第六七一号 自由書房 一九九二年五月

日本への直言 『文化評論』「特集・日本への直言」 一九九三年三月

国際的視野から見た今日の政治状況 『季刊・労働総研』第一一号 労働運動総合研究所紀要 一九九三年五月

政局の流動化と連合政権 『時事教養』第六八四号 自由書房 一九九三年六月

どうなる日本の政治―細川政権がねらうもの― 『新婦人情報』新日本婦人の会 一九九三年九月

近代日本の岐路(上)―自由民権と明治国家 『社会労働研究』第三九卷第四号 一九九三年

書評

丸山真男『人間と政治』『朝日ジャーナル』一九六一年一月一九日

中村哲『政治史』(日本現代史体系) 日本評論社

『現代の戦争』（岩波講座『現代』第七卷）（1963. 7. No. 134.）

『現代史資料』『ゾルゲ事件』（1・2・3）「国家主義運動」（1）みすず書房 『法政』一九六三年八月

田口富久治『日本政治の動向と展望』未来社 『エコノミスト』一九六四年六月二三日

吉野作造『憲政の本義を説いて其の有終の美を済すの途を論ず』毎日新聞社『日本近代の名著』一九六六年七月五日

山川均『政治的統一戦線へ！』毎日新聞社『日本近代の名著』一九六六年七月五日

岩村登志夫『日本人民戦線史序説』『エコノミスト』一九七一年八月一七日

金原左門『大正期の政党と国民―原敬内閣下の政治過程―』『出版ニュース』一九七三年一一下旬号

松尾尊允『大正デモクラシー』岩波書店『文化評論』一五九号 一九七四年一〇月

宮永孝『阿蘭陀商館物語』（筑摩書房）『法政』一九八七年三月

宮永孝解説『北槎聞略』（雄松堂）『法政』一九八九年二・三月合併号

座談会・対談・討論

時流をこえて『法政』一九五六年一二月

日常の感覚に根ざして（遠藤湘吉氏らと）『法政』「特集・日本の現実」一九五八年二月

大正時代の諸問題（Ⅰ）―民本主義とアナルコ・サンジカリズムを中心として―（司会・藤原彰、藤田省三氏らと）

『歴史評論』一九五八年十一月。同Ⅱは、一九五九年一月。

社会党の分裂が意味するもの―今後の課題は何か―（小松茂夫氏らと）『世界』一九五九年十二月

帰郷運動（ゼミナール・私たちの社会）『婦人公論』一九六〇年一〇月

ながい眼で―帰郷運動を通じて農村の実状から―『法政』一九六〇年一〇月

労働組合と革新勢力の新しい関係『経済評論』特集・日本の革新政党一九六一年六月

社会党大会の課題（高沢寅男氏らと）『平和経済』一九六二年一月

参議院選挙と革新勢力『世界』一九六二年九月

連帯の条件『現代の眼』特集・現代知識人の課題一九六三年六月

豊かなる学生生活のために『法政』一九六三年十二月

近代化論を吟味する（松下圭一、上田耕一郎氏らと）『エコノミスト』季刊別冊「日本を支配するもの」一九六四年四月

総評大会と労働運動の今後『朝日ジャーナル』一九六四年八月九日

宗教ファシズム・民主主義『現代の眼』一九六五年四月

日韓問題をどう考えるか（日高六郎、斎藤孝氏らと）『日韓問題』青木書店一九六五年一〇月

激動する国際情勢の中で（山本進氏らと）『法政』一九六五年十一月

大学自治の資格と焦点（神島二郎氏らと）『法政』一九六六年三月

日米共同責任時代と佐藤路線―匿名座談会―『エコノミスト』一九六七年十二月二二日

ヨーロッパにおける日本研究―二人の研究者（ジェフェリー・ボーンラス、ミリアム・イエリンコーバ）に聞く―『法政』一九六八年二月

英国と日本の政党（K・W・ワトキンス、中村哲氏らと）『法政』一九六八年五・六月

米騒動をめぐる―「明治百年」か「米騒動五十年」か―（金原左門氏と）『歴史評論』一九六八年八月

対アジア・対日政策はどう変わる（山本進、蠟山芳郎氏らと）『エコノミスト』「特集：新しいアメリカと日本」一九六七年十二月二日

七〇年代の日米関係―沖縄、安保、経済関係『エコノミスト』一九六九年七月八日

安保闘争と現代労働運動（太田薫氏と）『歴史評論』一九七〇年三月

保守支配の危機―その構造と認識―（篠原一氏と）『世界』一九七三年七月

政治姿勢と政策を評定する―問われる指導性―（特集：三木政権論）『エコノミスト』一九七五年六月三日

社会党「改革」と革新統一の展望（田口富久治氏らと）『文化評論』一九七七年一〇月

社会党内部抗争の問題点（田口富久治氏らと）『文化評論』一九七七年十一月

社会党と社会主義への道―共同戦線党の性格はどうなる―『エコノミスト』一九七七年一〇月二日

'78革新・非革新の政治構図『文化評論』一九七八年一月

日本の風土と文化―英国日本研究者との対話―（グレアム・ヒーリー、レスリー・コナーズ、中村哲氏らと）『法政』一九七八年二・三月合併号

どう動く八〇年代の政治『文化評論』一九七九年十二月

その他（主なもの）

【人】

社会党新委員長・勝間田清一氏 『毎日グラフ』 一九六七年九月一七日

長谷川教授のこと 『社会労働研究』 第19号、一九七三年三月

わが師、わが友 『法政通信』 一九七九年一月

存在感のある人 『栢野晴夫先生の追憶』 一九八三年

革命的ロマンチスト 『追憶・中林賢二郎』 一九八七年

青木教授の御退職に際して 『社会労働研究』 第35巻第1号、一九八八年

生涯一学徒 『千代田を愛して―加藤清政・わが人生―』 都政新報社 一九八九年

江間さんを偲ぶ 『社会労働研究』 第39巻第4号、一九九三年

追慕・谷川徹三先生 『向陵』 一高同窓会 一九九一年四月

【ルポ・時評・コラム・講演記録】

『戒厳令』 下のスト―三池争議の現段階―（高木督夫氏らと） 『刊・労働問題』 一九六〇年六月

張出大関・社会党 『サンデー毎日』 一九六〇年七月一〇日

第一五回総評大会 『月刊・労働問題』 一九六〇年九月

総選挙にのぞむ革新勢力 『思想』 一九六〇年十一月

社会党大会を傍聴する 『エコノミスト』 一九六一年三月二二日

「栄光への脱出」における政治―「栄光への脱出」の民族主義 『映画芸術』 一九六一年九月

わたしたちの生活と憲法「改正」『法政』（特集：憲法改定問題の検討）一九六四年八月

民芸・冬の時代『労演』一九六四年九月

ベトナム戦争と日本―知識人の役割と世論―日本事務能率協会『NOMAプレスサービス』一九六五年九月五日

明治百年問題と七〇年問題―政治のアナロジーからの視点―『パブリカ』一九六九年三月

国民的独立と民主主義『展望』一九七〇年一月

公明党は本当に創価学会と分離できるか『週刊ポスト』一九七〇年二月二十日

日本社会党論―再建の力学『評点』大東出版センター一九七〇年四月

普選と治安維持法『日本と世界の歴史21』二〇世紀（II）学習研究社一九七一年

日本の政局を一変させる田中内閣の大バクチ『週刊現代』講談社一九七三年五月三日

密室で誕生する首相『時事教養』自由書房一九七五年六月一日

三木内閣と政治情勢のとらえ方『賃金と社会保障』労働旬報社一九七五年十二月一〇日

財界丸がかえの三木内閣『あすの農村』新日本出版社一九七六年一月一日

ロッキード疑獄とシーメンス事件『海員』全日本海員組合本部一九七六年三月一日

選挙結果をみて―「争点ボカシ」を許す『連合通信』機関紙連合通信社一九七七年七月一四日

革新統一戦線をめぐって『みちしるべ』勤労者通信大学一九七八年四月一日

「解釈の確定統一」『科学と思想』一九八六年四月

歴史の検証のきびしさを感じる―全共闘運動を描いた「グッドバイ」―『シネフロント』一九八九年八月

労働者階級と民主主義―チャーチズムの場合―『研究経過報告集』第七号法政大学一九八五年

日本の大衆運動―米騒動とチャーチスト運動― 『研究経過報告集』第一三号法政大学一九九一年

【大学・学生】

大学における教授の役割と責任 法政』一九六三年六月一日

報告書 『学生問題研究会議』日本私立大学連盟 一九六三年九月三〇日

イギリスの大学図書館 『法政大学図書館報』一九六八年一月三〇日

学生部研修会に出席して 『法政』一九六三年一〇月

戦後三〇年「生き方を考える」―冬期スクーリングにあたって― 『冬期履修要項』法政大学通信教育事務局 一九七四年

生きた学問への情熱を―夏期スクーリングにあたって― 『受講要領』法政大学通信教育事務局 一九七四年

新しい価値観と連帯を―ヘモレツ社員―からヘサンジのあなた―に想う― 『法政通信』法政大学通信教育事務局

一九七五年四月

学生生活と神宮の青春―座談会― 『法政』一九七七年一二月号

三〇年史の発刊にあたって 『法政大学通信教育部三〇年史』一九八〇年十一月二五日

前期新入生を迎えて―法政大学の歴史に根ざした通信教育の発展を― 『法政通信』一九八〇年四月

法政の新しい波と建学の精神 『法政女子』法政大学付属女子高 一九八〇年十一月

シェフィールド大学―世界の大学― 『法政』一九八六年五月二〇日

女子学生について―特集「お父さんのちよつと一言」― お茶水女子大学付属高等学校PTA広報部 一九八七年三

月

公・私立大学大学院の現状と問題点―大学院問題研究委員会報告（財）大学基準協会 一九八八年一月二五日
イオンビーム工学研究所一〇周年に寄せて イオンビーム工学研究所報告 No.11 一九九二年一月
世界の大学―デューク大学―『法政』一九九〇年六月
他学部生への公開科目制度について 日本私立大学連盟『大学時報』一九九一年三月
教学改革と二一世紀への展望―社会学部創設四〇周年記念座談会『法政』一九九二年六月

【旅・スポーツ】

東南アジア一万キロ法政調査隊出発 『法政大学報』法政大学校友会 一九六〇年二月
東南アジア、カメラルポ 『法政』一九六一年三月
強い学生組織「東南アジア」―世界の学生たち 『朝日ジャーナル』一九六一年四月二日
エルフ・マイクロバス東南アジアを行く 『いすゞニュース』一九六一年四月
東南アジアと日本―東南アジアの旅行から（座談会）『法政』一九六一年五月
法政大学 東南アジア調査隊のアルバムより 『鈴の音』（ネン、ツキ、ヒ）
東南アジア七〇〇〇軒の旅 『世界の旅』修道社 一九六一年五月
ガソリンスタンドの小休止―東南アジアの旅から― 『シエルサービスニュース』一九六一年七月
スポーツと愛国心―庶民とはなれたスポーツ 『社会人』一九六四年二月
メナムからマライ縦走 『世界カラー紀行』一九六六年

新部長挨拶 『オレンジ』 法政大学体育会自動車部 一九六八年

高速道路と文明 『高速道路と自動車』 一九六八年五月

自主性に期待する―危機に立つ学生スポーツ―(座談会) 『法政』 一九六九年二月

北アフリカの大学と学生―チュニジアとアルジェリア― 『法政』 一九八五年一二月

世界への夢 『法政大学ラグビー部六十年史』 一九八七年八月

これからの剣道―その国際的展望― 『開成士風会』 一九九一年一〇月

【随筆】

歴史学を学ぶために 『歴史学研究会会報』 法政大学歴史学研究会 一九五六年四月

入門からの必要はない 『法政』 一九五八年七月

日本に社会主義社会が建設されたら／人間関係 『まなぶ』 労働大学 一九六一年一一月

映画時評(共同党議) 『法政』 一九六一年七月

事件の根をさぐりだすこと(最近の学内問題をめぐって) 『法政』 一九六二年九月

本 『法政』 一九六三年五月

ごあいさつ 『健康保健組合ニュース』 第八号 一九六五年一月

増島宏の診察カード 『College Life』 第二号 文化服装学院 一九六五年四月

記念講演(第一回ゼミナール大会) 『ゼミナリスト』 創刊号 第二社会学部ゼミナール連合 一九六八年一一月

発言記録 東京婦人問題会議（第二〇回婦人週間） 東京都民生局婦人家庭部婦人福祉課 一九六八年六月二五日

「喫茶店文化」の背景 『青と緑』 一九七四年三月

読書 『エコノミスト』 一九七七年一〇月二五日

「内からの入力」を反映する誌面―創刊二五周年によせて 『文化評論』 一九八七年二月

第二〇回多摩スポーツ・フェスティバル 『法政』 一九九三年六月

（単行本、雑誌に限定し、一般紙、書評紙等、新聞類に掲載されたものは除いた）